

ウィンターカップ2018 静岡県予選大会展望

文：中島 洋己

((一社) 静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭)

第71回全国高校バスケットボール選手権大会(ウィンターカップ2018)静岡県予選が平成30年10月20日に県内高校体育館で開幕する。11月11日に静岡県武道館で行われる決勝戦の勝者が12月23日に武蔵野の森総合スポーツプラザで開幕する全国選手権大会への出場権を獲得する。今年から2年間は改修工事のために聖地・東京体育館を離れることにいささか寂しさを感じるが、昨年から大会名が「選手権」となり名実ともに高校バスケット最高峰となったこの大会、栄冠をつかむのは果たしてどのチームなのか今から興味が尽きない。

【男子】

県新人、県総体の大会展望とともに「優勝候補筆頭は飛龍」と綴らせてもらったが、県総体決勝リーグでは飛龍、藤枝明誠、浜松開誠館の3チームが2勝1敗で並び、さらに該当チーム間の得失点も7点差の中に3チームと近年稀に見る大混戦となった。4位の浜松学院も浜松開誠館に延長まで持ち込み、最後にブザービーターで敗れはしたものの、東海総体出場を勝ち取らんと気迫こもる戦いを繰り広げた。この4強に県総体5位の静岡学園を加えたまさに「群雄割拠」の争いが最後の最後まで繰り広げられるであろう。

昨年の新人戦から現在県内大会5連覇中の飛龍はインハイでもベスト16、全国の強豪と試合を重ねた分、頭一つリードしている感がある。もはや説明の必要もないであろうエース関屋心は8月の日中韓ジュニア交流競技大会にも参加、堂々のスタメン出場を果たした一つ経験値を上げた。チームの大黒柱として活躍を期待されながら、昨年のウィンター以来怪我に泣かされ続け、東海総体は出場することすら出来なかった。持ち前の破壊力のあるドライブを武器に、どこからでも点数に結び付けられる1on1の能力がチームの生命線となるであろう。インハイ3試合全国の強豪相手に54得点、華のある稀代のスコアラーがチームを全国の檜舞台に再び導くであろう。関屋と共にチームを支える杉山裕介はまさに「オールラウンダー」。この言葉はまさに彼のようなプレイヤーのためにある言葉だ。得意とするディフェンスリバウンドから仕掛けるオフェンス、相手の隙をついての電光石火のスティール、そしてインサイドをドライブで切り裂き確率よく決めるシュートなど何をやらせても器用にこなすユーティリティープレイヤーでこれほど頼もしい選手はいない。そして杉山と共にゴール下を守るリバウンド王リュウ・ヤハオはこの一年で著しい成長を遂げ、チームの窮地を何度となく救ってきた。特にディフェンス面では体を張ってインサイドを守り、相手をペイントエリアに入れさせない守りを徹底して行った。またオフェンスでは力強いインサイドプレーや相手ブロックをかわす器用なフェイダウェイだけでなく、相手ディフェンスを引き離してアウトサイドからもかなりの高確率で得点を稼ぎ出すことが出来るようになった。広いシュートエリアとブレイクにも対応するスピードなど他の留学生にはない持ち味を今大会でも披露してくれるであろう。保坂晃毅は1年生ながら飛龍の「走るスピードバスケット」を象徴する選手で、1on1を得意とし攻撃の起点となっている。ゴール下に果敢に飛び込むリバウンドも得意とし、今後キャリアを積んでの更なる飛躍が期待される選手である。県総体決勝リーグでブレイクした色山輝は藤枝明誠戦、続く東海総体・四日市工業戦でも3P5本を決めて、勝負強さを十分に発揮した。その他決勝リーグ3試合で3P10本、42%という驚異的な3P成功率を残した山村祥太郎、ペネトレイトからシュートまたはアウトレットパスと臨機応変に攻撃のパターンを変えられる高須崇介、3Pを得意とする原田未央、ドライブ、リバウンドに自分の活路を見出す原千容、そしてそんなタレント揃いのチームを抜群のリーダーシップでまとめる西尾昂也もいぶし銀プ

レーヤーとしてチームを支えている。信条である「リバウンドに飛びつき全員で走るバスケット」を展開して大会連覇、そして2年連続県内高校三冠を狙う。

その飛龍を猛迫するのが藤枝明誠と浜松開誠館。**藤枝明誠**は留学生を中心としたインサイドを生かすプレースタイルで3年ぶりのインハイ出場を果たした。やはり一番の魅力は3人のマリ人留学生の高さ。県内最高身長207cm**セコウ・ドゥクレ**は押しも押されもしないチームの屋台骨。他の留学生とタイムシェアしながらも県総体決勝リーグ3試合で60得点。リバウンドやピックアンドロールだけでなく、1on1で相手ディフェンスをひきつけてドライブで抜く駆け引きも覚えた。昨年のこの大会決勝戦ではファウルトラブルに陥り悔し涙を流す場面も見られたが、その後のたゆまぬ鍛錬でメンタル面も強化。敗れはしたもののインハイの能代工業戦では競り合った後半で力強いセンタープレーを繰り返し、それがチームの底力として反映した。200cm**カミソコ・オマール**も空中戦だけでなく、器用なドリブルでディフェンスを抜きブレイクで攻める攻撃の起点となっている。恵まれた体でポストを占め、インサイドでダブルチーム、トリプルチームを仕掛けられても連続してリバウンドを拾い得点を重ね、さらには相手のファウルも誘い出すプレーを得意とし、さらなる成長が楽しみな選手である。197cm**オマール・ディディアン・チュヌ**は留学生枠の関係で今大会は登録外ながら、県新人・県総体でもセコウが負傷欠場した際にベンチ入りし、与えられた役割を必死に果たした。リバウンドに対する執着心も人一倍持ち、チームの状況によっては県武道館でプレーを見られる可能性もある。以上の留学生たちや192cm**山下輝夫**、194cm**川越大輔**などの大型センター陣に目を奪われがちだが、アウトサイドからだけでも十分勝機を見出せる選手層である。シューター**菊池広人**は相手ディフェンスが甘くなる一瞬の間を見逃さずドライブに持ち込んでいく。**中村和磨**は広い視野からの確かなタイミングでパスを供給する司令塔。現在はシックスマン的な役割に甘んじているが、躊躇なく放たれる3Pはインサイドで守りを固められている時の突破口となっている。主将としてチームを支える**野口嶺**はインサイドにマークが集中している間にスペースを確保し得点に結びつける。そして幾度となく起死回生の3Pでチームを救った**浜本健**などがコート縦横無尽に走り回り、常にミドルやペネトレイトのチャンスをうかがう。その他**中谷陸人**、**冨永優也**、**早瀬悠斗**などバイプレーヤーも多く抱え戦力も充実、満を持して4年ぶりのウィンター出場を狙う。

浜松開誠館はどのチームよりもこの大会にかける思いが強く、背水の陣で大会に臨むであろう。県総体で当時県内チームに対し39連勝中だった無敵の飛龍に死闘の末に逆転勝ち、最終試合でも粘る浜松学院を延長で振り切り、辛くも東海総体出場を勝ち取ったが、優勝した飛龍と得失点差7点、準優勝でインハイ出場を勝ち取った藤枝明誠とはわずか5点差で惜しくも優勝とインハイ出場を逃した。しかしながら東海総体でもインハイ出場を決めていた桜丘にも鮮やかな逆転勝ち、続く四日市工業には敗れたものの互角以上の戦いを繰り広げ、実力はすでに全国レベルにあると言える。ダブルエースと称される神田と田中がチームを全面的に支え続けている。**神田誠仁**はドライブ、3P、相手をひきつけてのパスアウトに加えて、リバウンドにも献身的に参加する。県総体・藤枝明誠戦では3P3本を含む30得点。特筆されるのはフリースローを13本決めたこと。きちんと落ち着いて狙いを定め、指先まで集中したスナップで放たれるフリースローは絶品である。点取り屋の**田中勇樹**は滞空時間の長い3Pだけでなく、ドライブ、ジャンプシュート、そしてバックシュートとバラエティーに富むシュートが魅力。特に東海総体出場を賭けた浜松学院戦の延長戦で決めたタップシュートのブザービートは今でも脳裏に焼きついて離れない神業であった。この2人が昨年チームを牽引してきただけに2人の出来次第で浜松開誠館のウィンター初出場が決まるといっても過言ではない。2人をアシストするのは佐原と今井田。**佐原和樹**はディフェンスからの速攻を武器とし、アウトサイドから果敢にゴールを狙う。県総体・飛龍戦では膠着する試合展開の中、残り1分決めたドライブからの3Pでチームに値千金の勝利をもたらした。東海総体・桜丘戦でも3P5本を含む25得点、立て続けに勝利の立役者となった。**今井田大輝**もシュートチャンスを逃さ

ない天才的感覚を持つプレーヤー。劣勢の状況下で力強く放つ絶妙の3Pはチームの士気を大いに上げてきた。桜丘戦では残り1分同点の場面でレイアップを決めて価値ある勝利を引き寄せた。その他、長身189cmの**田中駿**、飛び込みのリバウンドを得意とする**飯島友汰**、桜丘戦途中出場で勝利に貢献した1年生・**川嶋耕平**など戦力も多彩。バリエーションに富んだディフェンスで相手を翻弄し、得意のロースコアゲームに持ち込み勝利を重ねて県総体での雪辱を果たしてくれるであろう。

3チームを猛追するのが**浜松学院**。県総体・浜松開誠館戦延長で見せた鬼気迫る追い上げは賞賛に値するものだった。惜しくも4位に終わり東海総体も逃したが、収穫も多かった戦いとなった。チームの中心はこの試合でも36得点を稼いだ**葉山大誠**。フラッシュしながらポストアップ、そこからターンシュートやドライブに持ち込むテクニックは必見。派手さはないがリバウンドでもチームに貢献、攻守に渡りチームの大黒柱である。司令塔・**新村健心**は以前の3P中心からインサイドに切れ込んでドライブに持ち込むプレーにシフトチェンジ、新たな境地を見出し始めた。忘れてはならないのが、中川と後藤のフレッシュな1年生コンビ。2人とも全中出場経験もあり、キャリアも十分である。共に県総体はすべてスタメン出場、貴重な経験を積んだ。特に**後藤陸人**は決勝リーグ3試合で3P4本を含む29得点、上級生相手に物怖じしないプレースタイルは今後の飛躍を予感させた。187cm**中川賢人**もインサイドで必死にリバウンド争いを繰り広げ、ボールへの執着心を十分に見せた。大型選手が多く集う激戦区のポジションだけに、さらに強靱なフジカルを作り上げ留学生相手に互角以上に渡り合えるプレーヤーになって欲しい。その他堅実なディフェンスを得意とする**伊藤凧都**、センター陣185cm**于振華**、195cm**陳相廷**、丁寧なボールミートから得意のジャンプシュートに持ち込む**辺田涼介**などがうまく機能すれば、全国ベスト16に入った一昨年以来2年ぶりの優勝も現実味を帯びてくる。そのためにはまず準々決勝で対戦が予想される静岡学園との試合を確実に乗り切りたい。

県総体4強中心の優勝争いに絡んでいくのは**静岡学園**であろう。県新人7位、県総体5位と着実に順位を上げ、今回9年ぶりの4強、そしてさらに上位を狙う。やはりその命運を担うのは「静岡県バス界の至宝」205cm**市川真人**。U-18ドイツ遠征や日中韓ジュニア交流競技大会にも参加、体に柔軟性が生まれ、膝を使ったプレーが今まで以上に出来るようになった。3P や鋭いドライブも随所に見せ、派手なダンクも披露、一回りも二回りも成長した。市川だけでなく、県選抜選手として春の強化遠征にも参加した**鍋田隆征**、県新人2回戦・浜松工業戦で劇的なブザービーターを決めた**鈴木建人**、夏に焼津市のモンゴル遠征メンバーにも選ばれた**杉山大起**、**増田尋斗**、そして187cm**永井涼也**、長身191cm、抜群のポテンシャルを誇る**柴田祐希**のセンター陣など4強に負けない厚い選手層を誇る。18年ぶりの優勝に向けて、準々決勝で予想される浜松学院戦が大きな山場となる。

その他県総体6位、5位決定戦では22得点を記録したスコアラー**末永昂士**を擁する**三島北**、県総体・三島北戦で29得点を叩き出した**奥村隼人**、インサイドの要・**加藤麗央**、そして長いリーチを生かしたリバウンドが魅力の204cm**フェイ・モハメド**など戦力の整う**沼津中央**などが県武道館のメインコートで虎視眈々と狙っている。

上記以外の注目選手として、**福本海成**、**紅林慶**(伊豆中央)、**寺崎竜也**、**鈴木真斗**(加藤学園)、**須藤士恩**、**戸田寛大**(星陵)、**田形一真**(清水東)、**杉本健**(清水西)、**鈴木正宗**、**伊東宏人**(静岡)、**小林幹大**、**小坂成**(静岡東)、**林愛翔**(科学技術)、**篠島奏杜**(島田工業)、**玉木健太郎**、**花田竜輔**(浜松西)、**山村吏玖**、**大滝龍二**(浜松工業)、**岡島真之介**(浜松湖東)、**山下颯**(浜松湖北)、**小笠吏規斗**(浜松聖星)などが挙げられる。県武道館でこの選手たちの雄姿が見られることを心から期待する。

【女子】

女子は現在県内高校大会7連覇、51連勝中、まさに県内敵なしの強さを誇る浜松開誠館が他の追随を許さない状況が続いている。8月の全日本選手権県予選も大学生、社会人を圧倒敵な強さで破り連覇。全カテゴリーを含む県内大会は9連覇、57連勝まで伸ばした。まさに長期政権を築く独走態勢に入ったと言っても過言ではない。そして王者・浜松開誠館を追うのが県総体4強の常葉大常葉、駿河総合、市立沼津になるであろう。

大本命の**浜松開誠館**は高さで劣る分、ゴール下の攻防で主導権を握り、どこよりも走りどこよりも組織的に攻撃を展開していくバスケットを続けてきた。攻守の柱はアンダーカテゴリーの日本代表としても活躍する鈴木と石牧。**鈴木侑**は昨年この大会前にU-16 アジア選手権に出場し準優勝を経験、今年は7月にベラルーシで行われたU-17 世界選手権の代表にも選ばれ7試合すべてに出場、プレイングタイムも115分を数え27得点、世界の強豪相手に堂々の7位、上位浮上に大いに貢献した。特に2戦目ベラルーシ戦ではグッドパスを連発し9アシストを記録、アウェー感漂う敵地で開催国相手に勝利を引き寄せた。持ち味はゴール下にドライブで切れ込み、相手守備の動きを見て外からもシュートを決める的確な判断力とシュートエリアの広さであろう。またオフェンスのスペースに走り込み、1on1を仕掛けるなどコート縦横無尽に走り、フィニッシャーとなって得点を重ねるオールマイティーなプレーヤーでもある。世界選手権での貴重な経験から高さ対策は十分、果敢にゴール下やドライブからのレイアップ、ミドルシュートを決めてくれるであろう。**石牧葵**はこの1年間で誰よりも成長した選手であろう。元来キャリアもテクニックもポテンシャルもある選手であったが、怪我に苦しみ十分に自分の力を出し切れない時期が続いた。しかしながら日々練習に精進し努力を重ね、類まれな才能を十分に発揮出来るようになった。鋭いドライブ、ミドルレンジからのジャンプシュート、そして随所で決まる3Pを得意とするスコアラーで、ディフェンスを引き付けてのパスさばき、粘り強いディフェンスなど攻守に渡りチームの要である。今春にはU-18アメリカ遠征にも参加、さらにスキルアップして臨んだ県総体決勝リーグ・3試合すべて30得点以上、計102点を記録した。東海総体・安城学園戦でも35得点、もはやこの選手を止めるのは至難の技と言える。敗れはしたもののインハイ・八雲学園戦では高さに勝る相手にもドライブラッシュ、スティールからの速攻などで28得点、もはや全国トップレベルのプレーヤーである。鈴木・石牧をいかに抑えるか、果たして実際に抑え切れるのか、他チームにとっては頭の痛い悩みとなるだろう。劣勢であってもコートで声を出し続け仲間を叱咤激励し、チームを鼓舞する精神的支柱となっているのが絶大なキャプテンシーを誇る**小幡桃花**。昨年まではシックスマンとして縁の下の力持ち的な役割を果たしてきたが、今年に入ってレギュラー獲得、県選抜として出場した東海国体では後半から出場、得点も記録し重責を果たした。**伊藤綾優花**はスピードあふれるプレーでコート狭しと走りまわり、入りだしたら止まらない長距離砲も魅力。戦況を見ながら必要な役割を判断しプレーすることができる。下級生に目を移すと、**松岡木乃美**は内角の起点。強靱なフィジカルを誇り、体を張ったプレーが得意で、ゴール下やローポストでボールをもらいセンタープレーで巧みに得点を重ねる技術を持つ。**大西莉央**は昨年の大怪我から不断の努力で見事復活、東海総体・県立岐阜商業戦で約1年ぶりにコートに帰ってきた。インハイ・西原戦では得点も飾り、まさに力強い戦力が戻ってきた。1年生**山本涼菜**は170cm、待望の大型センター加入となり、課題であったインサイドが強化された。相手マークをインサイドに向けさせ、外からシュートをアシストするスピードあるパスは数ヶ月前まで中学生だったとは思えないほどの完成度である。西原戦では18得点、すでにチームに必要な不可欠な戦力である。**塩澤小夏**は8月の全日本選手権県予選で初のスタメン出場、貴重な経験をした。ボディーバランスがよく、シュート確率も上がってきているだけにさらに出場機会を増やし、チームに貢献していきたい。どの試合でも全選手がボールに執着心を持ち、攻めるディフェンスで相手を追い詰め、ボールを勝ち取り相手の攻撃機会を奪う浜松開誠館のバスケットが徹底されれば、大会3連覇はもちろん、ウィンターカップでも全国上位を十分狙えるであろう。

常葉大常葉は言わずと知れたウインター出場16回を誇る名門中の名門。3年前のウインター以来、全国出場から遠ざかっていたが、今年 of 県総体で駿河総合、市立沼津に競り勝ち準優勝、インハイ出場を果たした。インハイでは聖和学園と死闘の末惜敗したが、ウインターへの手ごたえは十分掴んだはずだ。司令塔・北村音緒は得点感覚に優れ、外からのシュート、そして鋭いペネトレーションを得意とする。経験を重ねるたびに精度も上がり、苦境に立たされたチームを救うクラッチシューターである。インサイドのプレーも器用にこなし、プレーの幅も広がったように思える。東海総体・岐阜女子戦では42得点、その高い得点能力は石牧葵と双璧をなす存在である。主将・山地菜月は体勢を崩しながらもシュートを確実に決める堅実なプレーヤーで、相手ディフェンスのフォーメーションバランスの隙をうかがい、1on1からレイアップへ持ち込むプレーが特色。ディフェンスも粘り強く、相手が嫌がるほどに密着してボールを奪いに行く。東海国体にも出場した山口郁実はチームの状況を見て好機を作るのに必要な動きを見極める天才肌のプレーヤー。リバウンドへの一歩目が速く、ボールの落下位置を予測しながらより良い位置でリバウンドを支配し、ブレイクにつなげて得点を重ねる。東海総体・名古屋女子大学戦は26得点、インハイ・聖和学園戦では29得点と北村とともにチームの攻撃の柱にまで成長した。他にもドライブやパスを待ち構えての3Pを切り札に持つ林美弥子、県総体や東海総体では十分な出場機会に恵まれなかったが聖和学園戦では堂々のスタメン初出場、緊張の中38分間献身的なプレーを続け6リバウンドを記録、センターと呼べるポジションがないチームの中でカットインからパスを受けてのレイアップに持ち込む力強いプレーを見せてくれた池田桃子、そしてインハイは怪我で欠場したが、スピードあふれるプレーで観客を魅了し、県総体・市立沼津戦では執念の追い上げで迫ってくる相手に勝負どころで得点を重ね、チームの窮地を作った保坂悠月など個々の能力では決して他チームにひけをとらない。「ステイロー」のモットーを忘れずに、全員で攻めて全員で守る一丸となったバスケットで3年ぶりの優勝を狙う。

駿河総合は県総体・事実上のインハイ出場決定戦となった常葉大常葉戦、最後に3P攻勢で怒涛の追い上げを見せたが7点差で惜しくも敗れ、涙を呑む結果となった。この悔しさをバネに背水の陣で今大会に臨む。得点源の野村菜由は要所で決まる3Pとドライブからの1on1に絶対の自信を持つ。ここぞという場面で見せる飛び込みのリバウンドからセカンドチャンスを見逃さずシュートを決めるプレーは幾度となくチームを勇気づけ、ピンチを救ってきた。県総体・市立沼津戦でも36得点、東海総体・安城学園戦では9リバウンド24得点を挙げる大活躍を見せた。もう一人のスコアラー鈴木美優は160cmの小柄ながらインサイドにカットインしてパスを受けてのレイアップ、3P、ドライブなど多彩なオフェンスバリエーションを持つ。安城学園戦では22得点を挙げて強豪相手にも通用するオフェンス力を見せた。この2人のずば抜けた破壊力は他チームにとって脅威の的となるだろう。勝又亜梨沙は持ち味のスピードを利用して、リバウンドからブレイクに持ち込むプレーが特長。県内最高身長177cm、ゴール下を任せられている加茂恵はフィジカルのさらなる強化に努め、ひとつひとつのプレーに力強さが出てきた。県総体、東海総体全試合スタメン出場、実戦経験を重ねて経験値を上げてさらにチームに貢献して欲しい。永石華萌は野村と共にチームを支える大黒柱、ドライブ、ミートシュートを器用にこなす選手。真骨頂は安城学園戦、いつも以上に執拗なディフェンスを繰り出しスティール4本を記録、まさにお手本となるような積極的なプレーを見せてくれた。シックスマンとしていつでも出場機会をうかがう佐々木萌は途中出場でもその実力を遺憾なく発揮するタイプ。ベンチにいても常に身を乗り出して出番に備え、まるで自分が試合に出ているかのように試合にのめり込んでいる。難しい場面で起用されてもすぐに試合に順応し、得意の3Pやドライブで自分のバスケットを貫くことが出来る好選手である。厚い選手層、そして適材適所に仕事が出来たプレーヤーが多数揃う中、各々自分に与えられた仕事をきちんと果たすことが出来れば悲願の初優勝も十分現実味を帯びてくるであろう。

昨年準優勝の市立沼津は県総体4位、全国も東海も逃した。その悔しさを強く胸に刻んで今大会に臨む。チームの主軸は東海国体・岐阜県戦、共にスタメン出場し活躍した遠藤と杉浦。遠藤真帆は3年連続県選抜選手に選ばれた県内有数のトップアスリート、インサイドの砦である。県総体決勝リーグでも3試合すべてインサイド勝負で80得点、緊張する場面でのフリースローも常に冷静沈着に決める頼れるエースである。杉浦雅も遠藤に負けないくらいのキャリア、テクニクを持ち合わせる。決勝リーグ3試合で59点、遠藤と並ぶ得点源となっている。得意のドライブだけでなく、常葉大常葉戦では3P3本とアウトサイドでも勝負出来るのが強みである。長身センター175cm古賀理紗はハイポストまでの広範囲なシュートエリアを持ち、ゴール下でも必死にリバウンドを取りに行き、アウトレットパスを出して外からのシュートにつなげる役割も果たしている。上記3選手に加え、早々にレギュラーを獲得した1年生齊藤汐海や県総体では途中出場していい働きを見せた進藤いづみなど若い力が台頭してきたので、個々が有機的に機能していけば8年ぶりの優勝も視界に入ってくるであろう。そのためには準々決勝で予想される昨年準決勝の再現カード・藤枝順心との試合を是が非でも勝ち抜きたい。

4強を猛追するのが、県総体5位の藤枝順心と6位の浜松学院。藤枝順心は昨年この大会で初の地元・県武道館のメインコート、そして3位入賞を果たし全国が見える位置まで来た。続く県新人は浜松開誠館、県総体では中部総体準決勝で勝利を収めた駿河総合にブロック決勝で敗れ、決勝リーグ進出を果たせなかった。それでも5位決定トーナメントでは他校を圧倒し県新人・県総体ともに5位を勝ち取った。今回は一部の主力3年生が引退、苦しい戦いが予想される。しかしながら戦力は充実、今回も打倒4強の一番手に挙げられる。エース・174cm内海遥はチームで唯一県選抜に選出され東海国体にも出場、インサイドプレーヤーながら器用に3Pも放ち、時にはボールを支配して1on1で強気に勝負して得点を奪うプレーが醍醐味。2年連続のメインコート進出はこの選手の活躍に委ねられていると言えるだろう。駒形伊恭もゴール下のプレーで真価を発揮する選手で、特にオフェンスリバウンドに強く、県総体・浜松学院戦では20得点を獲得、そのほとんどがリバウンドシュートであった。下級生にも望月彩楓や高橋香菜子など中学時代からキャリアを積んだ選手を多く擁するだけに準々決勝で予想される市立沼津との戦いは壮絶な試合となるであろう。

浜松学院は県総体・浜松市立戦3P5本を含む27得点を記録した持原光里の攻撃力が生命線となる。内外から一気呵成に放たれるシュートは入りだしたら止まらない。インサイドには174cm佐藤佳乃、173cm足立玲那、そして加茂恵と並ぶ県内最高身長177cmの早崎莉里香が待ち構える。高さでは県内トップクラスの戦力だけに、準々決勝で予想される駿河総合戦が今から楽しみである。早崎と加茂の大型センター同士、迫りに満ちたマッチアップにも注目したい。

上記以外の注目選手として、進藤綾乃、山田幸(三島北)、法月己歩(沼津商業)、阿部莉子、高橋呉波(飛龍)、長谷川舞乃、田野原清香(沼津中央)、牧田紗季(清水西)、増田優真、鈴木彩夏、川村菜摘(東海大静岡翔洋)、森田七海、杉本弥月(静岡西)、鈴木好(静岡女子)、石橋由衣、古林真汐(西遠女子学園)、大久保涼(浜松市立)、坂口可恵、大場愛花、鈴木碧月(浜松聖星)、横山遥香(浜松商業)などが挙げられる。県武道館でこの選手たちの雄姿が見られることを心から期待している。

今大会は男女とも初出場チームはないが、吉原(男子)、稲取(女子)が2年ぶりに大会に参加する。そして2年前常葉学園橘(現常葉大橘)と大会史上初の合同チームで出場、見事初戦勝利を飾った静岡英和女学院が3年ぶりに参加、今年は単独チームで16年ぶりの勝利を狙う。